

1 自己評価

I 評価結果

(別紙参照)

II 分析・改善方策

(1) 豊かな人間性の育成について

- ・コロナ禍、校門での「挨拶運動」は自粛となったが、廊下や教室での先生方の積極的な挨拶によって、全体的に気持ちよい挨拶ができています。
- ・資格取得は、前期の技能検定の中止となり受検する機会が失われた。その後は、高度な資格へ挑戦し成果を上げることができた。
- ・規範意識や人権意識の向上について、人権 LHR など様々な機会を通じて、粘り強く指導しており、全体として落ち着いた学校生活を送ることができている。

(2) 学習活動の充実について

- ・課題の提出状況、定期考査の理解度はおおむね満足できる状態である。各教科生徒一人一人の学習課題をふまえ、主体的に取り組むために必要な支援を考えて実践している。
- ・授業参観週間やオンライン授業の試み等、ICT 活用の実践に関して全ての教員が研究・研修を深めることができた。

(3) キャリア教育について

- ・工場見学、外部講師による講演会、インターンシップ等ほぼ中止となった。これらを補うため、進路指導課や担任を中心に創意工夫し、できる限りの情報提供をおこなった。

(4) 開かれた学校づくりについて

- ・コロナ禍、ホームページでの情報発信数は減少しているが、一昨年より、閲覧数が多い。興味のある情報が発信できていた。
- ・人数制限を設けたオープンスクールであったが、アンケート結果は好評だった。
- ・ものづくり教室や出前授業など、地域に出かけて働きかける「TokoToko プロジェクト～東工地域学～」は、ほぼ中止となった。

(5) 校内組織の活性化と人材育成について

- ・関係各課科部室で会議など、業務の見直しと効率化を目指し時間外労働時間を昨年より縮減することができた。
- ・日頃より関係課科部室においてメンターからメンティーに対して OJT が行われている。

2 学校関係者評価委員名

- ・鶴海 元 (同窓会会長)
- ・井勝 久喜 (吉備国際大学教授)
- ・羽原 年樹 (前 PTA 会長)
- ・樋口 享子 (保護者代表)
- ・吉澤 洋一 (山陽電研株式会社常務取締役)

3 学校関係者評価

- ・コロナ禍、新しい生活様式を踏まえ、様々な教育活動や就職指導など良く頑張ってくれた。
- ・校内では、多くの生徒が挨拶をしてくれた。学校全体が落ち着いている。
- ・授業を見学して、ものづくりに向けた積極的な取り組みや、熱い情熱を感じた。
- ・企業では、表計算ソフトや文書作成ソフトでの仕事が多い。在学中に勉強してほしい。
- ・放課後の資格補習のおかげで、多くの生徒が資格を取得している。今後お願いしたい。
- ・達成目標、基準など数値化できていないものを数値化する必要がある。
- ・OJT で科を越えて教員が繋がることは良いことなので、今後も続けていくほうがよい。

4 来年度の重点取り組み (学校評価を踏まえた今後の方向性)

- ・生徒会を中心に、TPO に応じた質の高い「挨拶運動」の実践を図る。
- ・授業以外の学習時間の充実に向け、さらなる具体的な取り組み・工夫の実践を図る。
- ・「TokoToko プロジェクト」の充実にも努め、生徒の自己肯定感・自己有用感の育成を図る。
- ・インターンシップを中心にキャリア教育の推進に努め、進路意識の高揚と進路実現を図る。
- ・ものづくりを通じて、地域創生に貢献できる人材の育成を図る。